



ロータリー財団の概要



ロータリー財団は
国際ロータリーの子会社
子会社の方が大きくなった



					
ケンジ・OK 会長 管理委員長	KR 山岡 健太 管理委員長エント	ケニス N. シェーマー トウ管理委員長		ブレンダ・クリグビー 2019-18年度 委員長	ジョン・ジヤーム
					
		ジェニファー・ジョーンズ 元副 副委員長	北 清治		イアン・ライズリー
				敬啓略	
				4年任期で 任命される 構成メンバ ーは15名 事務総長含 めて16名	

敬称略

4年任期で
任命される
構成メンバ
ーは15名
事務総長含
めて16名

ジョン・ヒューコ

2019年6月6日 ドイツ、ハンブルク
(管理委員&配偶者)

2019年10月25日 米国、IL、エバンストン
理事会との合同会議

2019年10月28日～30日 米国、IL、エバンストン
(管理委員&配偶者)

2020年1月18日～19日 米国、CA、サンディエゴ
(管理委員、次期管理委員&配偶者)

2020年4月27日～29日 米国、IL エバンストン
(管理委員、次期管理委員&配偶者)

2020年6月11日 米国、ハワイ州、ホノルル
(管理委員&配偶者)



6

ロータリー財団の使命

《財団の使命》

ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、**世界理解、親善、平和を達成できるようにする**

《国際ロータリーの使命》

私たちは、他者に奉仕し、高潔性を推進し、事業と専門職務および地域社会のリーダーの間の親睦を通じて**世界理解、親善、平和を推進する**



スライド 7

7

「ワン・ロータリー」 一致団結して使命を完遂

- 国際ロータリーとロータリー財団は独立した法人です。しかし、理念上も、実際上も、ひとつのロータリーとして機能しています。**ひとつのロータリーとして一致団結することで、ロータリーは使命を果たすための強い土台を築いています。**

ロータリー財団はロータリーの使命を達成するための手段

- ロータリー会員は**会費を通じて国際ロータリーを支援し、寄付を通じてロータリー財団を支援しています**

ミッション・3つの優先項目・6つの重点分野



スライド 8

8

ロータリー財団とは

ロータリー財団は、皆様からのご寄付を世界各地での奉仕活動に役立てています。創立以来100年間、教育の支援や持続可能な成果を生み出すプロジェクトにより、世界の地域社会を少しずつ変えていく事ができます

- ロータリアンが所有する財団
- 世界の最も切実なニーズに応える
- 世界における活動範囲は国連を超える
- 政府などの支援が行き届かない所で活躍



スライド 9

9

なぜロータリー財団を設立したか

- 国際ロータリー**はイリノイ州の州法によって設立された非営利法人ですから、ロータリアンから、あるいは外部から寄付金を受け入れることは当然可能です。
- しかし、**寄付した側の会員や法人等は、税制上の優遇措置を受けることが出来ません**。そこで、同じイリノイ州の州法ですが、別の規定によって設立したのが**ロータリー財団**なのです。

① 多額の資金管理を行うため

② 税制上の優遇措置を得るため

法人運用益の免税
寄付者の所得控除

二重の免税待遇



スライド 10

10

財団の協力財団組織(財団の下部組織)

1. カナダ 1948年
2. ドイツ 1987年
3. インド 1988年
4. イギリス 1990年
5. オーストラリア 1994年
6. ブラジル 2003年
7. ドイツ(2つ目) 2009年
8. 日本 2010年

協力財団を通じてロータリアンが税制上の優遇措置を受けることのできる国々に、限定された数の協力財団が存在する



11

公益財団法人ロータリー日本財団

- 公益財団法人ロータリー日本財団は、**国際ロータリーのロータリー財団の協力財団**です。この法人は日本の法律に従って設立された公益財団法人です。この法人を通じてロータリー財団に寄付しますと、**日本の税制上の優遇措置を受けることが出来ます**。
- 現在、ロータリー財団に対する寄付金は、公益財団法人ロータリー日本財団を総じて寄付しますと、全ての寄付金が税制上の優遇措置が受けられます

《目的》

- ◆個人が海外留学するため、もしくは海外から日本へ留学するための**奨学金(グローバル補助金における奨学金)**および**ロータリー平和フェローシップの付与**
- ◆非営利財団法人である国際ロータリーのロータリー財団の活動を支援するための**寄付金の提供**



スライド 12

12

国際ロータリーとライオンズクラブ国際協会

国際ロータリー

2018年末 会員数119万5107人 35,678クラブ
ロータリー財団(TRF)1917年財団創設

2018年末 純資産 \$1,127,298,000
TRFの収入合計 399,142,000 米ドル

ライオンズクラブ国際協会

会員数146万1445人 48,383クラブ (2018年7月)
ライオンズクラブ国際財団(LCIF)1968年財団創設

2018年末 純資産 \$313,789,739
LCIFの収入合計 66,534,901米ドル



13

世界の慈善団体ランキング

『ウィキペディア (Wikipedia)』

- 1位 : スティヒティング・インカ・ファウンデーション (360億ドル)
- 2位 : ビル&メリンダ・ゲイツ財団 (351億ドル)
- 3位 : ウェルカム・トラスト (229億ドル)
- 4位 : ハワード・ヒューズ医学研究所 (186億ドル)
- 5位 : フォード財団 (138億ドル)
- 6位 : イングランド教会委員会 (105億ドル)
- 7位 : ゲティ財団 (101億ドル)
- 8位 : 李嘉誠基金 (101億ドル)
- 9位 : ロバート・ウッド・ジョンソン財団 (100億ドル)
- 9位 : ハムダン・ビン・ラシド・アール・マクトゥーム基金 (100億ドル)
- 10位 : ウィリアム・アンド・フローラ・ヒューレット財団 (85億ドル)
- 11位 : W・K・ケロッグ財団 (84億ドル)
- 17位 : アンドリュウ・メロン財団 (61億ドル)
- 25位 : ロックフェラー財団 (38億ドル)

ロータリー財団 純資産 10億5867万ドル
ロータリー純資産 1億3684万ドル
2025年までに20億2500万ドルの恒久基金を達成目標



14

ロータリー財団の財務



15

財団の財務報告



- 国際ロータリーとロータリー財団は、毎年『年次報告書』を全世界のすべてのクラブ宛に送付しています。皆様のクラブにも、当然ながら送付されています。
- しかし、受け取ったクラブでは、幹事報告として「RIと財団の年次報告書」が届いていますので回覧します。」と言って回覧するだけです。一般の会員はほとんど中身を見ることなく回覧しているのが実情のようです。この報告書には、活動報告と財務報告が掲載されています。

RIのウェブサイトでもご覧頂けますので、この報告書を是非ご覧になってください



16

ロータリー財団に11年連続で最高の4つ星評価

慈善団体の格付けを行う米国の独立機関、チャリティーナビゲーター (Charity Navigator) が、ロータリー財団に11年連続で最高の4つ星評価を与えました。この評価は、ロータリー財団の健全な財務状況および説明責任 (アカウンタビリティ) と透明性へのコミットメントが認められたことによるものです。「このような評価をいただきとても光栄です」とロータリー財団のロン・パートン管理委員長。

米国にて最も効率的な運営を行っている慈善団体の上位3%の評価を得る



2017-18年度収支報告 (RI&TRF)

国際ロータリー

収支報告

2017年会計年度と2018年会計年度 (6月期、単位:1000米ドル)

	2017年実績	2018年実績
収入	\$ 68,784	\$ 73,330
経費	\$ 9,557	\$ 3,358
経費以外の活動	\$ 26,529	\$ 27,803
収入合計	\$ 146,848	\$ 144,511
支出		
経費	\$ 7,417	\$ 79,497
経費以外の活動	\$ 20,619	\$ 19,471
一般管理費	\$ 1,577	\$ 1,195
支出合計	\$ 96,513	\$ 140,144
純増減	\$ (75)	\$ (1,080)
経費率の増減	\$ 10,252	\$ 1,257
経費率 (増減)	\$ 126,597	\$ 136,839
経費率 (増減)	\$ 146,819	\$ 144,496

ロータリー財団

収支報告

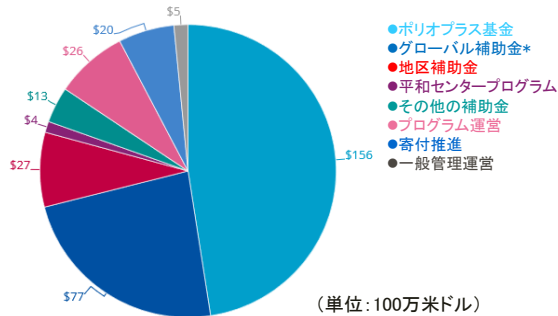
2017年会計年度と2018年会計年度 (6月期、単位:1000米ドル)

	2017年実績	2018年実績
収入	\$ 304,375	\$ 341,137
経費	\$ 96,052	\$ 55,195
経費以外の活動 (純増)	\$ (3,359)	\$ 1,751
収入合計	\$ 199,888	\$ 199,146
支出		
プログラム活動	\$ 221,204	\$ 277,225
プログラム活動	\$ 23,205	\$ 25,462
経費率	\$ 19,666	\$ 20,330
一般管理費	\$ 4,713	\$ 5,435
支出合計	\$ 248,461	\$ 298,472
純増減	\$ (69)	\$ (1,030)
経費率の増減 (入金の未入の手当)	\$ (1,610)	\$ (440)
経費率の増減	\$ 128,542	\$ 48,422
経費率 (増減)	\$ 918,114	\$ 1,453,474
経費率 (増減)	\$ 1,052,474	\$ 1,127,298

* 国際ロータリーは500万ドル以上のチャリティー・アワードを毎年授与している。これは、
「国際ロータリー財団の収支報告書」に掲載されている。国際ロータリー財団の収支報告書は、
「国際ロータリー財団の収支報告書」に掲載されている。

17

2017-18年度のロータリー財団の財務



19

ロータリー財団の5年間の収支

国際ロータリーのロータリー財団
5年間の収支報告
(単位: 100万米ドル)

	2016-17	2015-16	2014-15	2013-14	2012-13
収入					
寄付					
年次基金 (シェアと国際財団活動資金)	\$ 136.7	\$ 120.1	\$ 122.9	\$ 116.6	\$ 115.1
年次基金: 基金分野	1.5	1.1	0.9	0.8	0.6
ポリオプラス基金	107.9	97.4	95.0	100.3	96.2
恒久基金	28.4	16.7	20.0	23.7	20.4
非連帯関係者指定寄付	10.6	14.4	9.9	6.1	4.3
その他 ¹	17.3	15.9	17.2	12.1	1.0
寄付合計	304.4	265.6	268.9	259.6	239.6
投資収益とその他の活動					
年次基金	49.9	(3.3)	1.2	62.7	35.6
ポリオプラス基金	0.2	0.5	0.5	0.5	0.3
恒久基金	43.2	(6.4)	0.8	46.2	24.0
非連帯関係者指定寄付	2.2	(0.4)	0.0	1.4	0.7
投資収益 (損失) とその他の活動の合計	95.5	(7.5)	2.5	110.8	60.6
収入合計	\$ 399.9	\$ 258.1	\$ 271.4	\$ 370.4	\$ 300.2

20

プログラム別基金、プログラム運営費、その他の運営費					
プログラム別基金合計	\$ 126.3	\$ 114.7	\$ 123.4	\$ 128.9	\$ 73.6
ポリオプラス	72.9	70.0	64.9	47.3	12.1
グローバル補助金	25.6	25.6	23.5	23.5	5.3
地区補助金	4.5	4.1	4.7	5.3	4.9
ロータリー平和センター	2.4	0.3	0.5	0.5	0.6
パートナーシップ補助金	(0.4)	(0.7)	(1.1)	(2.5)	57.9
その他	7.7	7.2	5.1	5.4	1.2
プログラム別基金合計	221.2	221.2	224.3	211.4	155.6
プログラム運営費					
ポリオプラス	2.7	3.0	2.5	2.4	2.5
ロータリー補助金	20.5	22.2	18.4	17.7	8.4
恒久基金					10.0
プログラム運営費合計	33.2	35.2	20.9	20.1	20.9
プログラム別基金・運営費合計	244.4	246.4	245.2	231.5	176.5
運営費					
寄付推進	19.9	19.4	15.5	15.0	17.7
一般管理運営	4.8	5.2	4.9	5.1	4.6
運営費合計	24.7	24.6	20.7	21.1	22.3
プログラム別基金、プログラム運営費、その他の運営費の合計	\$ 269.1	\$ 271.0	\$ 265.9	\$ 252.6	\$ 198.8
為替の増減	(0.5)	(5.4)	(8.1)	0.6	(3.7)
年次基金の調整額	-	3.4	(3.4)	2.0	-
暫定的未収入金のための手当費	(1.3)	-	-	-	-
計画期間末の未収入金	\$ 129.5	\$ 115.9	\$ 85.9	\$ 129.6	\$ 97.7

2016-17 2015-16 2014-15 2013-14 2012-13
1億2850万ドル 1億580万ドル 1億800万ドル 1億240万ドル 9770万ドル

21

ロータリー財団のプログラム



TITLE | 22

22

財団のプログラム

ポリオプラス・プログラム

ロータリーの最優先項目。
ポリオ常在国、ウィルス流入国、
高リスク国を中心とした世界の
ポリオ根絶のための取り組み。

ロータリー平和フェローシップ

世界に6つあるロータリー平和
センターの1つで、国際
関係、平和、紛争解決とそ
の関連分野で学ぶ学生へ
の奨学金。

補助金 (DG・GG)

人びとによりよい生活をもたらし、地域社会に貢献する
ロータリアンの活動を支え
ている活動。(人道的専任
プロジェクト、奨学金、職業
研修チーム)



TITLE | 23

23

ポリオプラス・プログラム



TITLE | 24

24

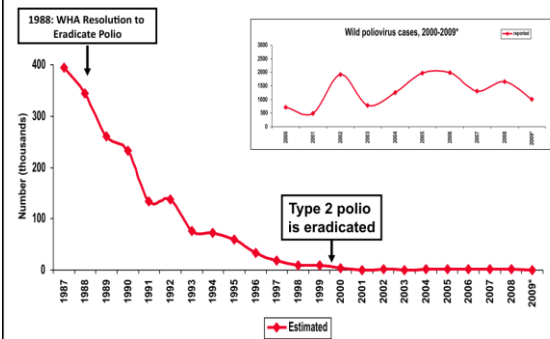
ポリオプラス・プログラム

ロータリーは、1979年にフィリピンの子どもたちにポリオ予防接種をはじめて以来、パートナー団体とともに懸命に活動を続け、全世界でポリオの発症数を99.9パーセント減らすことに成功しました。1988年に35万件だった発症数も2016年にはわずか37件となりましたが、撲滅活動はまだ終わっていません。活動資金の不足によって、ポリオ感染の危険が高い国で予防接種率が低くなる可能性があります。再流行が起きた場合、今後10年間に、毎年20万人以上の子どもがポリオによる身体まひの犠牲になると推定されています。撲滅に必要な15億ドルの資金を確保することが現在の課題とされています。



25

図1 ポリオ発症数の世界的な推移



26

野生株によるポリオ発症数

		2019年 1月1日～ 6月19日	2018	2017	2016
常在国	パキスタン	27	12	8	20
	アフガニスタン	10	21	14	13
	ナイジェリア	0	0	0	4
常在国 以外	赤道ギニア	0	0	0	0
	イラク	0	0	0	0
	カメルーン	0	0	0	0
	シリア	0	0	0	0
	エチオピア	0	0	0	0
	ソマリア	0	0	0	0
	ケニア	0	0	0	0
	世界合計	37	33	22	37

2018年は野生株のポリオ発症数は増加したが、統計的な誤差の範囲



27

ロータリーからの資金面での支援

1985年以来、RIからGPEIへの寄付額:

約20億ドル

1985年～2019年までのGPEI総額:

151億8548万ドル

内訳:

援助国 67億0093万ドル (米国29億ドル、日本5.6億ドル)

民間団体 47億5157万ドル (RI 16.3億ドル、ゲイツ 31億ドル)

多角的セクター 20億8481万ドル

(WHO、世界銀行、アフリカ開発銀行、国連人道基金、JICA)

被援助国 18億0509万ドル



28

ポリオ根絶のためにあと15億ドル不足(2017年6月)

各国・団体からの誓約 (2017年8月現在)

4億5,000万ドル	ビル&メリンダ・ゲイツ財団	1,030万ドル	スイス
1億5,470万ドル	パキスタン	500万ドル	EasyJet 航空
1億5,000万ドル	国際ロータリー	500万ドル	イタリア
1億3,460万ドル	ナイジェリア	400万ドル	韓国
1億3,000万ドル	英国	200万ドル	韓国保健医療財団 (KOFH) / 社会福祉共同基金
7,500万ドル	カナダ	170万ドル	国連基金 / Shot@Life
6,140万ドル	欧州連合 (EU)	51万4,000ドル	米国ユニセフ協会
5,500万ドル	日本	50万ドル	ルクセンブルク
3,000万ドル	アラブ首長国連邦	33万ドル	モナコ
3,000万ドル	Dalio Foundation	13万ドル	New Era Educational and Charitable Foundation
2,500万ドル	Bloomberg Philanthropies	6万ドル	トルコ
1,500万ドル	匿名寄付者	3万ドル	マルタ
1,340万ドル	オーストラリア	2万ドル	スペイン
1,120万ドル	ドイツ	2万ドル	Accenture Interactive (米国)

(誓約合計: 13億6,490万4,000米ドル)



29

GPEIでの主要パートナー団体の役割

世界保健機関(WHO)は「戦略担当」: GPEIの実施と管理、各国保健省に技術面や運営面のサポートを提供。活動成果のモニタリング、戦略の立案。

米国疾病対策センター(CDC)は「ウイルス対策担当」: 疫学者、公共保健専門家、科学者を起用してポリオ流行について調査。ウイルスの種類と感染源を特定。

UNICEF(国連児童基金)は「予防接種担当」: ワクチンの購入と分配。予防接種の効用に関する認識向上。

ロータリーは「アドボカシー担当」: 会員の持つ事業と専門職、ボランティアのネットワークを生かし、ポリオの認識向上、募金、地域社会の動員、政府や民間への支援の働きかけ(アドボカシー)を実施。これまでに100万人以上の会員がボランティア活動や募金を通じてポリオ撲滅を支援。

ビル&メリンダ・ゲイツ財団は「リソース担当」: 民間団体としてポリオ撲滅に最も多額を寄付。技術面でのリソースも提供。



30

G20大阪宣言（全36条）

我々は、我々自身の中核的な能力の強化及びWHO国際保健規則（2005）に従った他国の能力支援を含む公衆衛生、備え及び対応の改善にコミットする。（中略）

我々は、ポリオを根絶し、エイズ、結核及びマラリアの流行を終わらせるとのコミットメントを再確認するとともに、世界エイズ・結核・マラリア対策基金の第6次増資の成功を期待する。



31

ロータリー平和フェローシップ

32

ロータリー平和フェローシップ

- 平和は「人」から始まると考えるロータリーは、平和フェローシップ（奨学金）を通じて、**世界平和と紛争予防の担い手となる人材を育て、平和推進者の世界的ネットワークを築いています。**
- 毎年、世界中から選ばれる**最高100人のフェロー**が、ロータリー平和センター提携大学で学びます。フェローシップには、授業料・入学金の全額、滞在費（宿舎・食費）、往復航空券、インターンシップと実地体験の費用が含まれます。
- 創設から10年あまり、ロータリー平和センターは、平和構築の分野のキャリアを志す**1,083人の人材を輩出**してきました。その多くは、国連や世界銀行といった国際機関や草の根のNGOでリーダーシップを発揮し、より平和な世界を築くために活躍しています。

日本の地区からでは、わずかに33名のフェロー

33

ロータリー平和センターの卒業生（学友）



2004年センター開設以来の卒業生：1100名以上

ロータリー財団に現況を報告している人：95%

「平和と紛争解決／紛争予防」の分野、またはほかのロータリー重点分野で活動している学友：88%

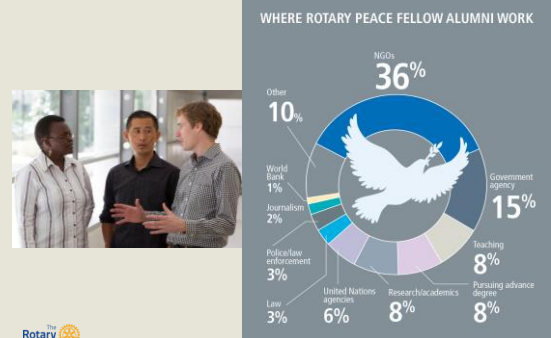
34

ロータリー平和センターの卒業生（学友）



35

ロータリー平和センターの卒業生（学友）



36

提携大学



37

ロータリー平和センターの増設（2030年までに）

2030年までに4つの新しい平和センターを設置

- アジア 1つ
- 中東・北アフリカ 1つ
- サハラ以南のアフリカ 1つ
- 中南米 1つ

現在、6つのロータリー平和センター

- デューク大学およびノースカロライナ大学チャペルヒル校(米国)
 - 国際基督教大学(日本、東京)
 - ブラッドフォード大学(英国、ブラッドフォード)
 - クイーンズランド大学(オーストラリア、ブリスベーン)
 - ウプサラ大学(スウェーデン、ウプサラ)
 - チュラロンコン大学(タイ、バンコク)
- 3カ月の集中研究プログラム、平和分野の専門能力開発修了証

38

補助金 (DG・GG)

39

地区補助金とグローバル補助金

地区補助金 (DG)

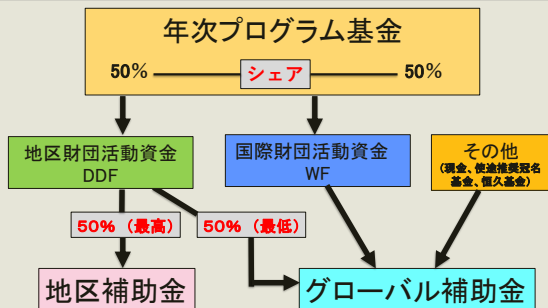
- ▶ 小規模、短期のプロジェクト
- ▶ 地元または海外での活動
- ▶ ロータリー財団の使命を支える活動
- ▶ 年に一度、地区に一括支給

グローバル補助金 (GG)

- ▶ 大規模(会計予算30,000ドル以上)・長期のプロジェクト
- ▶ 持続可能・測定可能な成果をもたらす
- ▶ 重点分野に該当する活動
- ▶ 海外のクラブや地区と協力
- ▶ WF(World Fund:国際財団活動資金)からの上乗せ

40

財団のシェアシステム



41

重点分野の名称変更

2019年4月

未来の夢計画の実施後初めての包括的な見直しを受け、TRFは、各重点分野の基本方針に若干の変更を加え、いくつかの重点分野の名称を変更すること以外には、6つのすべての重点分野を維持することに同意しました。

新名称	新名称	旧名称
疾病予防と治療	Disease prevention and treatment	
母子の健康	Maternal and child health	
水と衛生*	Water, sanitation, and hygiene*	Water and sanitation
平和構築と紛争予防* (平和と紛争予防/紛争解決)	Peacebuilding and conflict prevention*	Peace and conflict prevention/resolution
地域社会の経済発展* (経済と地域社会の発展)	Community economic development*	Economic and community development
基本的教育と識字率向上	Basic education and literacy	

42

2019-20年度 ロータリー財団の方針



TITLE | 43

43

2019-20年度 RI&TRF 年次目標 (抜粋)

優先事項の目標: 行動する

1. ポリオ撲滅活動においてロータリーとロータリアンが果たしている役割を広く伝える
2. 地区財団活動資金(DDF)を十分に活用することで、地区補助金、グローバル補助金、ポリオプラス、ロータリー平和センターの資金とし、地域社会および海外でのプロジェクトを増やす
3. 年次基金とポリオプラスへの寄付を増やしつ、2025年までに恒久基金を20億2500万ドルまで成長させる
4. ロータリーへの認識を高め、「世界を変える行動人」キャンペーンを促進する



TITLE | 44

44

目標(世界) 2019-20年度

- **全体: 4億ドル**
- 年次基金: 1億4,000万ドル (+300万ドル)
- ポリオプラス基金: 5,000万ドル
- 恒久基金: 7,500万ドル(誓約含む)
2025年までに20億2,500万ドル
(2025by2025)
- その他の寄付 3,500万ドル(GG現金寄付など)
(+350万ドル)



TITLE | 45

45

日本の2019-20年度の財団目標

- ・ 年次基金
年次基金寄付ゼロクラブ0達成を継続する
- ・ ポリオプラス基金
1人当たり30ドル(日本全体約270万ドル)
- ・ 恒久基金
冠名基金を各地区1件以上設立
- ・ 大口寄付
寄付の種類にかかわらず、**1万ドル以上のご寄付を日本全体で100件**
AKSを日本全体で10名増やす



TITLE | 46

46

地区ロータリー財団委員会 各プログラムと寄付の目標



TITLE | 47

47

地区補助金の方針

地区補助金は地区に裁量権がゆだねられた資金であり、より多くのクラブが公正に利用できる。

- **上限一杯活用 100%使用を目標**
- RIの授与と受諾の条件を遵守
- 締め切り日前に余裕をもって申請をお願いする
- 事前の相談に親切に対応する



TITLE | 48

48

グローバル補助金の方針

全クラブの25%がグローバル補助金(GG)に
関与する。

- 年度支給額を100%使用目標
- 国際奉仕委員会との連携・アドバイス
- 事前の相談窓口を開設
- 複数クラブでのGG事業推進
- **GG奨学生**の積極的募集



50 | 50

49

奨学生の募集推進

- **地区補助金**による奨学生(芸術・スポーツ含む)
- **グローバル補助金奨学生**
(6つの重点分野)
毎年5~6名程度を目指す
学友会の充実 ⇒ 将来のロータリー会員
- **平和フェロー**
WFの活用
世界の平和に貢献 公共イメージ向上



51 | 51

50

2018~19年度の2650地区目標

年次寄付 1人当り \$180以上を!!

恒久基金への寄付

各クラブで**1人以上のベネファクター**を!
恒久基金(シェア分)に対する継続的なご寄付を

ポリオプラス

1人当り **30ドル**以上

大口寄付の推進にご支援を

2650地区 もう少しで **メジャードナー** 約100名
メジャードナー 195名 **日本** 1990名

寄付ゼロクラブを次年度も継続



52 | 52

51

最後に



53 | 53

52

改めてロータリー財団とは、、、

- ロータリー財団は他の団体に寄付をするためではない
- **ロータリーの活動のために、自分たちで基金を貯めて有効に使う**
- 基金を補助金として地区やクラブが活用する
- 活用目的は**人道的奉仕と人材育成**
- 世界的な規模で影響力のある活動を行う
(たとえば、**ポリオ撲滅**)
- 結果的に、ロータリーの公共イメージ向上や
会員増強に繋がる

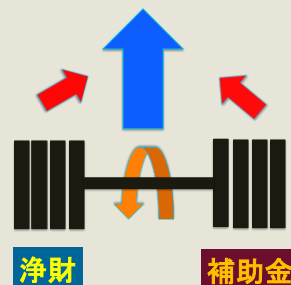


54 | 54

53

寄付と補助金活用は車の両輪

ロータリークラブの発展 & ロータリー財団の発展



55 | 55

54

ご清聴有り難うございました。



TITLE | 55

55

参考資料



TITLE | 56

56

ロータリー財団の歴史 ～なぜロータリー財団が生まれたか？～



TITLE | 57

57

初期の財団



世界でよいことをした100年



TITLE | 58

58

寝ても覚めてもロータリー "thinks Rotary, sleeps Rotary, and dreams Rotary"

クリーブランドRCの4代目会長（1913－14年）
としても活躍し、『寝ても覚めてもロータリー』と自
称するほどロータリー活動に打ち込み、クラブ会長
として最後の演説で『クラブが今後多くのことを
できるように、緊急基金を設けよう』と提案した。



一言で言えば、
大きな活動をするために
は基金（お金）が必要！



TITLE | 59

59

アーチ・クランフの構想 "doing good in the world"

- ・ 理事会で会長として、基金設立の提案をしたが、全く支持を得ることは出来なかった。
- ・ そこで、1917年アトランタでの大会で、このプランを大勢の前で披露した。
- ・ 『我々は今年、ロータリーのために基金を作る可能性について、組織に呼びかけた。諸所の社会奉仕を今まで通りに実行していくには、慈善、教育、そのほかの社会的分野において、世界でよいことをするための（"doing good in the world"）基金を作るのが極めて適切であると思われる』



TITLE | 60

60

始まりは26ドル50セント

- しかし、このクラフの呼びかけに対する周囲の反応は、全くの無関心であったと言われている。
- 当時、退任するRI会長に、功労に対する感謝の品をプレゼントする習わしがクラブにあった。
- クラフ会長への贈答品の購入代金に余剰が出た **カンザスシティRCは26.5ドルをロータリー本部に送り、クラフ会長が提案した基金に入れるように要請した。**(1917年7月理事会決定)
- 1918年の国際大会はカンザスシティ。
- こうして最初の種がまかれ、ロータリー基金が誕生した。



1917

61

財団創成期の状況

- 今の貨幣価値に換算すると **536ドル**
- **日本円に換算すると 58,960円**
- しかし、6年たっても基金の残高はやっと700ドルに達したに過ぎなかった。(約140万円)
- 11年後の1928年ロータリー財団が設立された
- しかし、元会長のうち誰一人として、財団のために力を貸そうという人はいなかった。とはいえ、断固反対する人もいなかった。



1918

62

財団はクラフのたわいない夢？

『財団はクラフのたわいない夢だ』と述べる、心なく、不当で、不誠実なロータリアンが時々いることは残念(1934年のアーチ・クラフの書簡)

- それくらい無視された存在。
- 8年間事実上、クラフの個人的プロジェクト

1924年

- ロータリー救済資金の残高500ドルを基金に繰入

1928年 ミネアポリス大会

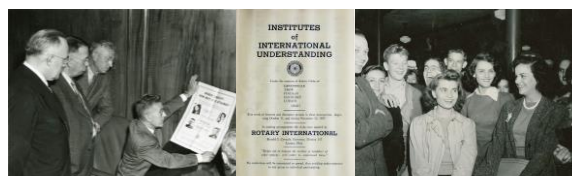
- ロータリー財団設立 管理委員5名 5年任期
- クラフが初代委員長 1929年末 5739ドル残高

2000万円程度

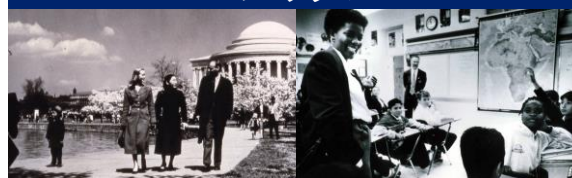


1929

63



プログラム



世界でよいことをした100年



1929

64

はじめての補助金支給

- 1930年 エドガー・アレン『オハイオ州、エリリアRC』の設立した**障害児協会**に初の補助金を送る (500ドル)



- 平和と親善を推進する国際奉仕への認識を高めるための小論文コンテスト(ウィーンの高校生対象)500ドルの賞金
- マサチューセッツ州 ボストンでも同様のコンテスト
- 1932年 アンダーソン会長 ロータリー財団推進委員会設置



1930

65

初の補助金(1930年)

国際身体障害児協会(後のイースター・シールズ)に授与



エドガー・アレン

ポール・ハリス



1930

66

初期の財団活動(1930年代)



67

国際奉仕を行う為の補助金

- **クラブが国際奉仕を行うための手段として財団が注目されるようになる。**
- 1936年 国際理解の推進のために、国際理解研究所を設立。著名な作家、経済学者、政治家、コメンテーターを招聘し、一般市民と市民会合を実施。
- マニラRCには2,000ドル
- 戦火に苦しむベルギー、フィンランド、オランダの国民に 寝具や食料を送りための資金
- 1945年 国際連合設立のためのサンフランシスコ会議にロータリーは招致された。

68

1946年 ロータリー財団の目的が変更

- 高等教育のための**ロータリー財団奨学制度**の拡充
- 未開催国への**国際理解研究会**の拡大
- 各国と国民の間に**国際理解と友好関係を進めることを目的とした、確実で効果的なプロジェクト**の育成
- 戦争や災害により破壊や損害を被った**ロータリアンと家族のための救済方法**の準備



69

初期の財団プログラム: 大学院奨学金(1947年)

Paul Harris FELLOWS The first recipient of the Paul Harris Fellowship was a young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	STEWART CECIL BLAIR A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	JACQUES PIERRE DUCHAMP A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	VICTOR ELLIOTT A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.
EVERETT S. ALDER A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	ROBERT OWEN BOWEN A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	RENNAN G. DOMINGUEZ A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	ANDRÉ WIECHELICK A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.
JEFFREY HEATH ALDAM A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	LEON TOLLIVER ROSSWELL, JR. A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	JACQUES PIERRE DUCHAMP A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	SETHOUR MINDESSON A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.
WILLIAM HENSON BARBER A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	JACK WILLARD BOWEN A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	RICHARD HOMER HADLEY A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	PETER HARRISON SMITH A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.
STEPHEN DAVID BICKER A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	JACK BIRCH CRESSMAN A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	JAY STAFF JOHNSON A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.	CARL OWING DE WU A young man who had been a member of the Rotary Club of Chicago for many years. He was a student at the University of Chicago and was studying for his Ph.D. in the field of political science. He was a very bright and capable young man who had been a member of the club since he was a young boy.

70

ポール・ハリス逝去 1947.1.27 享年 78 歳

- 長年病気に苦しんでいたハリスは、没後記念碑などを建てずに、葬儀に花を手向けることも遠慮してほしいと遺言し、その代わりに、国際理解を進めるための寄附をしてほしいと頼んだ。
- 1947年末までに**130万ドル以上の寄付**。(50億円)



71

日本からの親善奨学生の誕生

- その後の40年間、**奨学金はもっともよく知られた財団のプログラム**となり、国際理解と親善というロータリーの目的を推進する学生のネットワークを築いていった。
- **緒方貞子さん 1951年 ワシントンDC ジョージタウン大学**
- 1956-57年には、30か国の116名が23か国へ留学

72

ロータリー財団学友

ロータリーは、現在もまだ続けているコースに私を乗せてくれました。もし私が国際親善奨学生としてアメリカの大学に行かなかったならば、国際理解の研究に従事しようとは思わなかったでしょう。



緒方 貞子

元国連難民高等弁務官
ロータリー財団奨学生
(1951～52) 2期生
日本女性では初めての奨学生



TITLE | 73

73

新しいプログラムが進展

- 1965年 寄付総額が100万ドルを超える
- 1965年 GES（研究グループ交換）
特別補助金（のちのマッチンググラント）
技術研修プログラム
- 1978年 レヌーフ会長エレクト（当時）
3Hプログラム提唱
保健、飢餓、人間尊重
Health, Hunger & Humanity
- 1978年 保健、飢餓追放および人間尊重プログラム
(3H)を創設



TITLE | 74

74

3Hプログラム (Health, Hunger and Humanity)の開始

- 1979年 ロータリー誕生74年目
ポリオ予防接種 76万ドル 630万人接種
3Hプログラムの第1号
- 1980年 3Hプログラムの目標設定
 - ・**保健** **第1優先はポリオ、第2は基本医療と保健教育、第3はリハビリ**
 - ・**飢餓追放** ... **第1優先は水資源、第2は農業**
 - ・**人間尊重** ... **第1優先は識字率、第2は職業訓練、第3は緊急援助**



TITLE | 75

75

3Hからポリオプラスプログラムがスタート

3Hプログラムの目的は国際間の理解、親善平和を推進するための方法として、人々の健康状態を改善し飢餓を救済し、人間的社会的向上発展を図ること。

- 1985年**
全世界でポリオの撲滅をめざす「**ポリオプラス・プログラム**」がスタート。
- 2000年**
WHO西太平洋地域37の国と地域をポリオフリー
- 2002年**
大西洋から中央アジアに及び欧州地域もポリオフリー



TITLE | 76

1985年来、20億人の子供にポリオ接種

76

ポリオプラスの推進と新しい補助金モデル

- 1987～88年**
初めての平和フォーラムが開催され、これが「**ロータリー平和フェローシップ**」創設のきっかけ
(2002～2003年度)
- 2013年** (2010年から3年間100地区試験段階)
未来の夢計画が全世界でスタート
世界中のロータリアンがグローバルなニーズに応えられるよう、新しい補助金モデル(**地区補助金、グローバル補助金、パッケージ・グラント**)を導入



TITLE | 77

77